

序 文

本書は、小郡保育園建替工事に先立ち、小郡市教育委員会が実施した寺福童開遺跡1の発掘調査の記録です。

調査地は小郡市中央部、宝満川西岸の台地部分が舌状に張り出す低位段丘上に所在します。

周辺地ではこれまで数回にわたる発掘調査が実施され、弥生時代から江戸時代にかけての遺構・遺物が確認されています。本調査でも住居・建物跡などの遺構を検出し、周辺遺跡との関連が注目されます。

本調査は、市内における古代集落の様相を明らかにする上で重要な成果です。本書が文化財への理解、さらには教育および学術研究の一助となれば幸いです。

最後に、調査にご理解・ご協力いただいた周辺住民の皆様、また地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

平成31年3月31日

小郡市教育委員会
教育長 清武 輝

例 言

1. 本書は、小郡市寺福童地内における保育園建替工事に伴って、小郡市教育委員会が平成 28 年度および平成 29 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 遺構の写真撮影は杉本岳史、一木賢人が行い、空中写真は（有）空中写真企画に委託した。
3. 遺構の実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、山川清日、永富加奈子、牛原真弓、林知恵ら諸氏に多大なる協力を得た。
4. 遺物の写真撮影は、（有）システム・レコに委託した。
5. 本書の遺構略号は、SC（住居）、SB（掘立柱建物）、SK（土坑）、SD（溝状遺構）を用いた。
6. 遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第Ⅱ座標系に則っている。
7. 遺物・実測図・写真は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
8. 本書の執筆及び編集は一木が担当した。

本文目次

第1章 調査の経過と組織	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	1
3. 調査組織	1
第2章 位置と環境	2
第3章 調査の概要	4
第4章 まとめ	12
出土遺物観察表	13
写真図版	

挿図目次

第1図 寺福童開遺跡1周辺の主要遺跡分布図(S=1/25,000)	3
第2図 寺福童開遺跡1 調査箇所(S=1/25,000)	3
第3図 寺福童開遺跡1 遺構配置図(S=1/100)	折込
第4図 寺福童開遺跡1 出土土器実測図(S=1/4)	8
第5図 1号住居跡実測図(S=1/60)	9
第6図 1・2・3号掘立柱建物実測図(S=1/80)	10
第7図 1・2号土坑実測図(S=1/40)	12
第8図 防空壕実測図(S=1/40)	12

表目次

表1 出土土器観察表	13
------------	----

図版目次

図版1 ①寺福童開遺跡1 北区全景(上空から)	②寺福童開遺跡1 南区全景(北東から)
図版2 ①1号防空壕 完掘(南から)	②1号防空壕 完掘(西から)
図版3 ①1号住居 東西ベルト土層断面(南から)	②1号住居 南北ベルト土層断面(西から)
③1号住居(上空から)	④1号住居 下層(北から)
⑤1号掘立柱建物(北東から)	⑥1号溝 完掘(北から)
⑦2・3号溝 完掘(北から)	⑧2・3号溝 土層断面(南から)
図版4 ①3号溝 土層断面(北から)	②4号溝 完掘(北から)

③ 5号溝 完掘（南から）

④ 1号土坑 土層（東から）

⑤ 1号土坑 完掘（東から）

⑥ 2号土坑 完掘（東から）

図版 5 出土土器

図版 6 防空壕 出土遺物

第1章 調査の経過と組織

1. 調査に至る経緯

小郡寺福童開遺跡1の発掘調査に至る発端は、小郡保育園園舎建替工事に伴う埋蔵文化財の有無の照会（平成28年11月11日 小教文第6111号）に始まる。これを受けて、小郡市教育委員会が申請地を対象に試掘調査を実施した結果、古代の遺跡の存在が確認された。この結果に基づき、平成28年3月8日付で埋蔵文化財発掘の通知が提出され、協議の結果、695.88㎡について発掘調査を実施することで合意した。

小郡寺福童開遺跡1は平成28・29年度に現地発掘調査、平成30年度に出土遺物整理作業、報告書作成を実施した。

2. 調査の経過

現地調査は平成29年3月17日に着手し、平成29年5月17日に終了した。主な経過は以下の通りである。

平成29年3月17日：重機を搬入。南区の表土剥ぎを開始。

3月22日：遺構掘削を開始。

4月5日：調査現場担当を一木に変更。

4月19日：南区の埋め戻し後、北区の表土剥ぎ。

4月24日：北区の掘削開始。

5月2日：北区の空中写真撮影。

5月12日：北区の埋戻し。

5月17日：完全撤収

3. 調査組織

寺福童開遺跡1における発掘調査に関する組織は以下の通りである。

〈小郡市教育委員会〉

教育長 清武 輝

教育部 部長 山下博文（平成28・29年度）、黒岩重彦（平成30年度）

文化財課 課長 片岡宏二（平成28年度）、柏原孝俊（平成29・30年度）

係長 柏原孝俊（平成28年度）、杉本岳史（平成29・30年度）

技師 杉本岳史（平成28年度）

嘱託 一木賢人

第2章 位置と環境

当遺跡の所在する寺福童は、小郡市中央部、宝満川西岸の台地部分が舌状に張り出す低位段丘に位置する。以下で当遺跡周辺の歴史を概観する。

当地区は古くから弥生時代の遺跡の存在が知られており、最も古い例では昭和2年に中山平次郎氏により「寺福童出土の甕棺」が紹介されている。地区内ではこれまで6回、南西に近接する福童地区内で7回の発掘調査が実施され、弥生～江戸時代の遺構・遺物が確認されている。

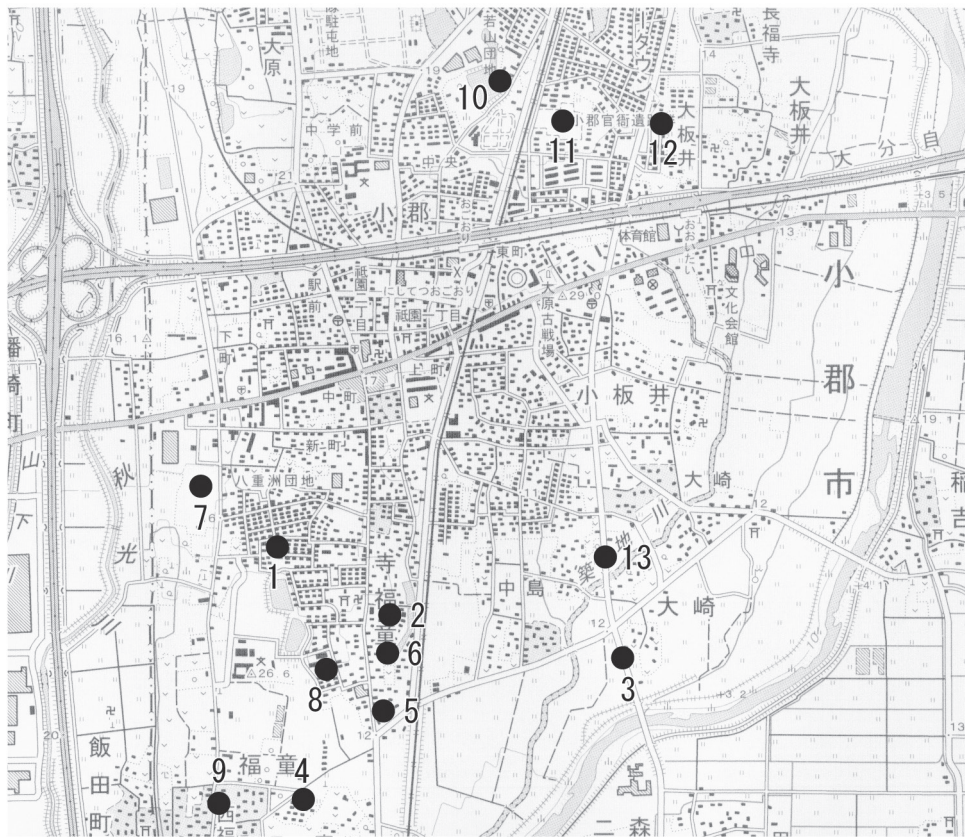
市域における旧石器～縄文時代の遺跡の数は少なく、縄文時代の3例のみである。弥生時代になると集落の形成が活発になり、市域北部の三国丘陵と、甘木鉄道大板井駅～小郡駅を中心に広く展開する。前述の寺福童遺跡5地点(1)では、柳葉式磨製石鏃を伴う前期の木棺墓や、中期を主体とする甕棺墓群を検出している(小郡市教育委員会 2006)。また寺福童遺跡4(2)では中広型の銅戈9口を伴う埋納遺構を検出し、弥生時代中期の所産と判明している。東に接する大崎区内でも、大崎中ノ前遺跡(3)等の集落が出現し、以後古墳時代にかけて寺福童区内の集落群と連動した様子が見られる。

古墳時代初頭には、福童町遺跡1(4)を皮切りに集落が営まれ、同時期の墓域として方形周溝墓4基が検出された寺福童遺跡1(5)が挙げられる。両遺跡から外来系の古式土師器が出土しており、小郡市域と畿内の関係が窺われる。古墳時代後期～末にかけては、刀子や耳環を伴う土壙墓と、若干時期を新しくする掘立柱建物が検出された寺福童内畑下道東遺跡(6)がある。奈良時代には福童町遺跡2、寺福童遺跡2・3で若干の遺物が確認されるが、集落の様相や規模を覗わせるほどの資料は確認されていない。

奈良時代末から平安時代の遺跡はこれまで未確認だが、鎌倉時代には福童山の上遺跡(7)で掘立柱建物や溝、道路状遺構、土坑、井戸が検出され、龍泉窯系陶磁や白磁などが出土している。

近世の遺構は寺福童遺跡2(8)で集落域の区画と思われる溝が検出し、福童山の上遺跡でも同時期の溝が確認されている。また福童東内畑遺跡(9)では近世の井戸・土坑群・溝状遺構群を検出し、17世紀代の陶磁器がまとまって出土している。

一方、弥生時代中期以降の集落・墓域は、現在の市域中心部である洪積台地上で大規模に展開しており、その代表例が小郡若山(10)・小郡官衙(11)・大板井(12)の諸遺跡を包括する「小郡・大板井遺跡群」である。小郡若山遺跡では中期前半の甕と多鈕細文鏡2面を伴う埋納遺構が確認されており、大板井遺跡では1935年甘木鉄道敷設の際に中期の中細形銅戈7口が出土したとの記録がある。小郡の大板井遺跡を弥生時代の北筑後地域の拠点集落とする説もあるが、同様に多数の青銅製祭器を持つ寺福童遺跡の位置づけが問題である。また同遺跡のような埋納遺構は、性格上多くが集落から隔絶された場所に見られるが、北九州市重留遺跡の竪穴住居での検出例などもあり、当時の生活の場と祭司的性格を持つ場との関係は多様な姿を示す。寺福童から東の大崎地内では、大崎小園遺跡(13)、大崎中ノ前遺跡など弥生時代中期～後期の集落が分布しており、青銅器埋納遺構を有する寺福童遺跡との関連性が検討課題である。



第1図 寺福童開遺跡1周辺の主要遺跡分布図 (S = 1/25,000)



第2図 寺福童開遺跡1 調査箇所 (S = 1/100)

第3章 調査の概要

本遺跡は小郡保育園園舎の建て替えに伴い実施された発掘調査である。調査範囲は、保育所建築に伴う695.88㎡で、標高14～16mに位置する。調査区は廃土の関係から南側と北側に分けて調査を行った。今回の調査では住居跡1軒、掘立柱建物2棟、土坑2基、溝5条、防空壕1基等を検出した。

1. 遺構と遺物

(1) 竪穴式住居

1号住居跡（第4図、図版3）

調査区北側壁面沿いに位置する。北側は調査区外に広がる。西側は一部攪乱を受けており、貼床が確認できなかった。平面は方形プランとみられ、東西6.10m、南北4.80mを確認した。壁高は0.16mを測る。主柱は4本で、P1～P3を確認したが、うち1本は調査区外となる。出土遺物は土師器・須恵器が出土し、土師器が多くを占める。

出土遺物（第2図、図版3）

1は土師器の甕。2・3は須恵器の坏蓋で、天井部はヘラ切り。3は天井部にヘラ記号がみられる。4は土師器の高坏で、脚部の小片。外面にヘラケズリを施す。

(2) 掘立柱建物

1号掘立柱建物（第6図、図版3）

調査区南西に位置する南北棟の掘立柱建物である。主軸をN-45-Eにとる。2×1間の建物で、規模は桁行2.92m×梁行2.06～2.52m、桁間1.40～1.54m、梁間2.06～2.52mを測る。柱掘り方は円形～不整円形を呈し、径0.62～0.66m程、深さ0.43～0.55mを測る。遺物は出土しなかった。

2号掘立柱建物（第6図、図版1）

調査区南側に位置する南北棟の掘立柱建物である。主軸をN-48-Eにとる。2×1間の建物で、規模は桁行3.72m×梁行2.28～2.84m、桁間1.80～2.00m、梁間2.28～2.84mを測る。柱掘り方は円形～不整円形を呈し、径0.24～0.6m程、深さ0.05～0.53mを測る。遺物は出土しなかった。

3号掘立柱建物（第6図、図版1）

調査区南側に位置する南北棟の掘立柱建物である。主軸をN-5-Wにとる。1×1間の建物で、規模は桁行2.21～2.28m×梁行1.96～2.04m、桁間2.21～2.28m、梁間1.96～2.04mを測る。柱掘り方は円形～不整円形を呈し、径0.4～0.8m程、深さ0.31～0.45mを測る。遺物は出土しなかった。

(3) 溝

1号溝 (第3図、図版3)

調査区南東に位置し、南北に延びる。最大幅 0.25m、長さ 2.4m、深さは遺構検出面から 0.1 mを測る。遺物は出土していない。

2号溝 (第3図、図版3)

調査区東側に位置し、南北に延びる溝である。南北ともに調査区外まで続くため全長は不明だが、最大幅 0.65 m、長さ 21.2 m、深さは遺構検出面から 0.10 ~ 0.70 mを測る。3号溝に隣接し北側で切り合いになるが、土層から本遺構が3号溝を切るため、後に造られたとみられる。出土遺物は須恵器、土師器が出土しているが、小片が多く、図示できるのは僅かである。

出土遺物 (第4図、図版5)

5は須恵器の坏蓋。天井部の小片で、外面にヘラ記号がみられる。

3号溝 (第3図、図版3・4)

調査区東側に位置し、南北に延びる溝である。最大幅 0.60 m、長さ 21.1 m、深さは遺構検出面から 0.30 ~ 0.50 mを測る。先述のように2号溝に切られるため、本遺構は2号溝より前に造られた溝とみられる。出土遺物は須恵器、土師器が出土しているが、小片が多く、図示していない。

4号溝 (第3図、図版4)

調査区南東に位置し、南北に延びる。最大幅 0.41m、長さ 4.16m、深さは遺構検出面から 0.10 mを測る。遺物は須恵器の小片を僅かに確認したが、図示していない。

5号溝 (第3図、図版4)

調査区南東に位置し、南北に延びる。最大幅 0.45m、長さ 4.2m、深さは遺構検出面から 0.10 mを測る。南側は防空壕に切られる。遺物は小片が多く、図示していない。

6号溝 (第3図)

調査区北東に位置し、南北に延びる。最大幅 0.4m、長さ 7.05m、深さは遺構検出面から 0.10 mを測る。遺物は小片が多く、図示していない。

(4) 土坑

1号土坑 (第7図、図版4)

調査区南壁沿いに位置する。楕円形を呈し、長軸 1.18 m、短軸 0.97 m、深さは遺構面から 1.68 mを測る。堆積の状況から弥生時代の貯蔵穴と考えられるが、遺物は出土しなかった。

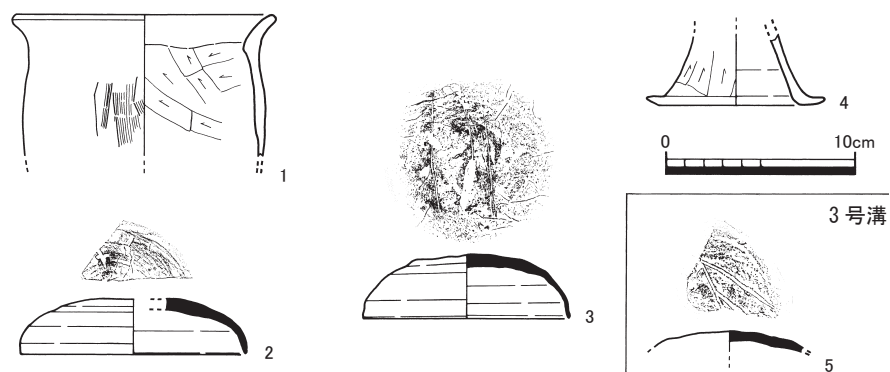
2号土坑（第7図、図版4）

調査区北東側に位置する。平面は不整形を呈し、長軸1.70m、短軸1.10m、深さは遺構検出面から0.80mを測る。遺物はほとんど出土しておらず、いずれも小片のため図示していない。

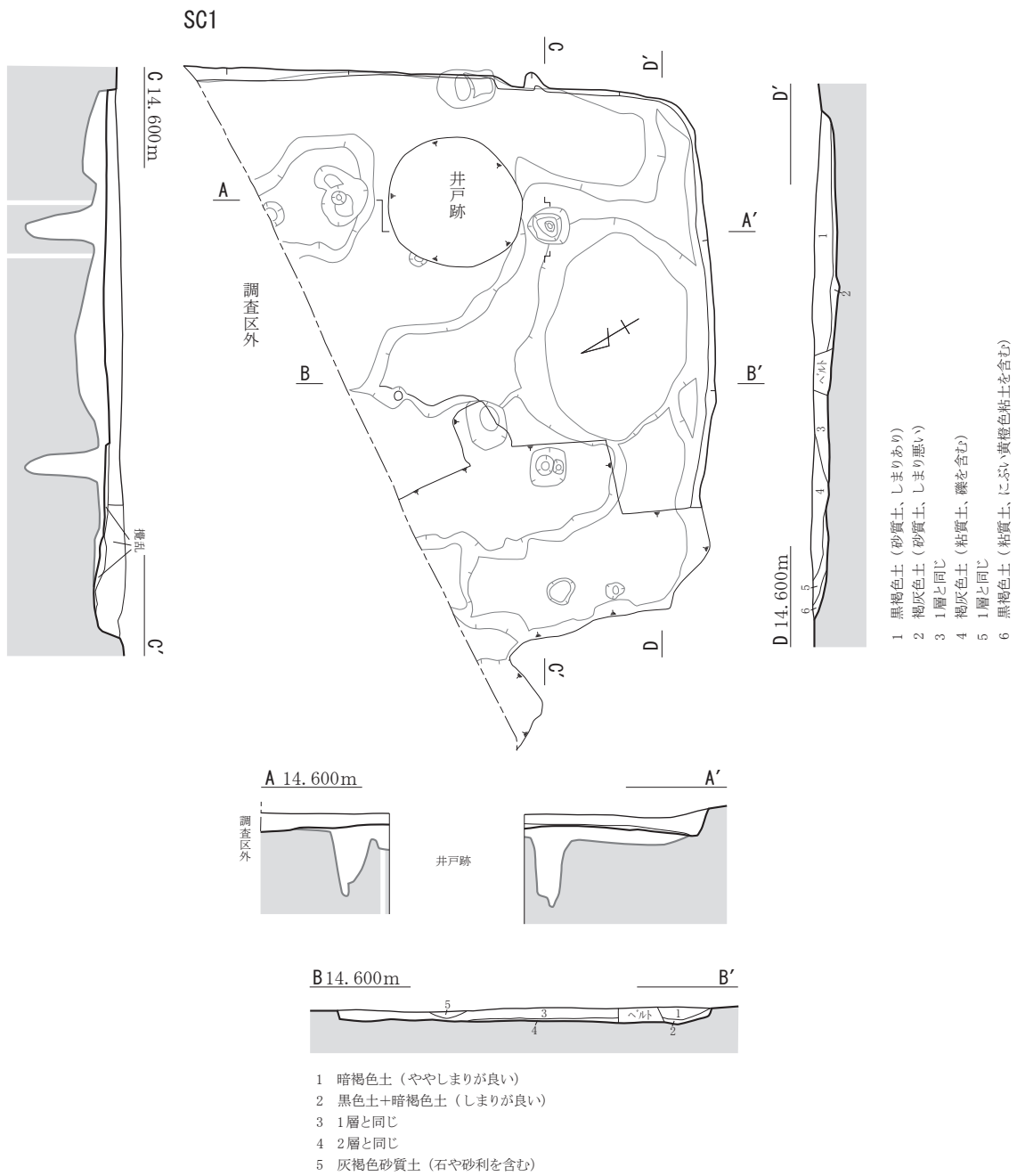
（5）その他

防空壕（第8図、図版2・6）

調査区北側より防空壕を1基検出した。南北3.92m、東西3.82m、深さは遺構検出面より1.35mを測る。壁面には上部構造を支える柱穴を14本検出し、東西にそれぞれ出入口と見られる階段状の掘りこみが確認された。建物はライトとみられるものと、釘とみられる鉄製品が出土した。



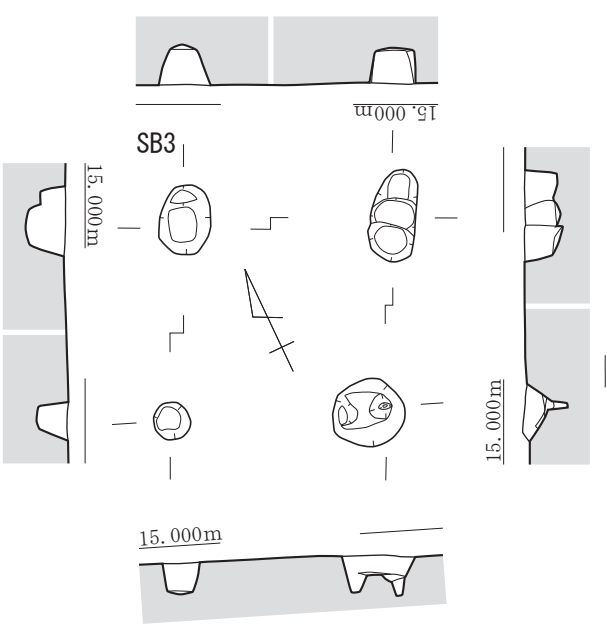
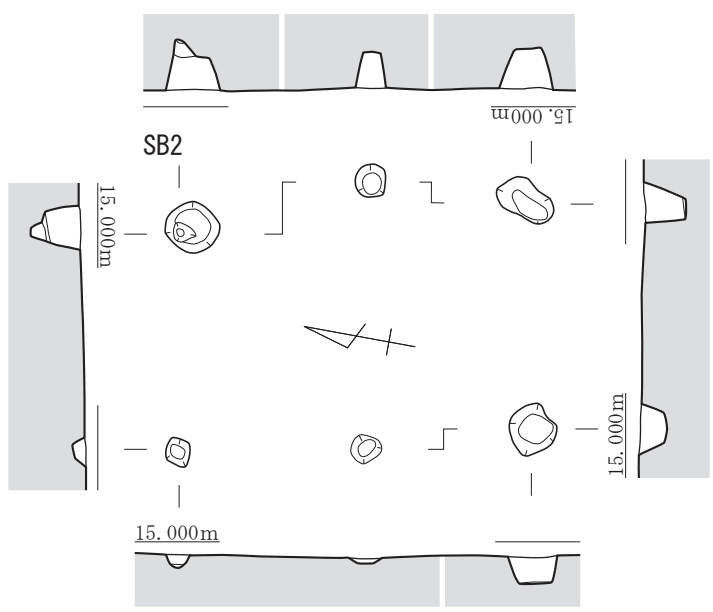
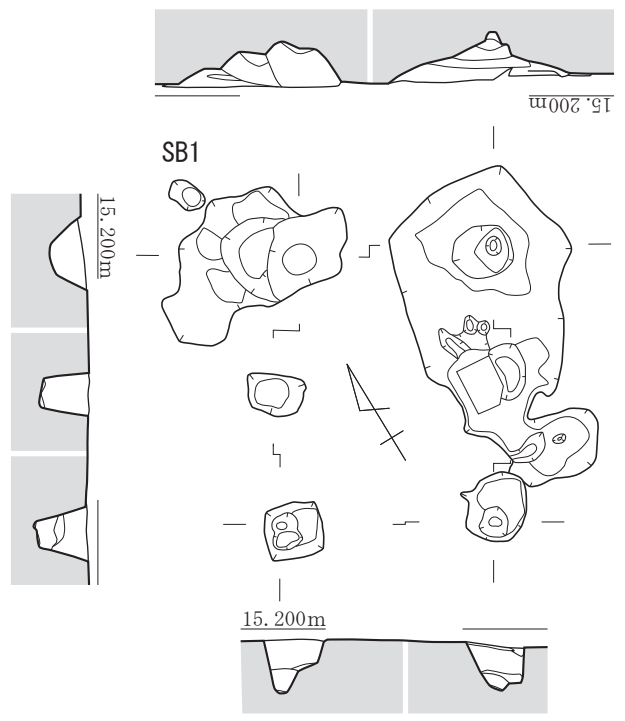
第4図 出土土器実測図（S = 1 / 4）



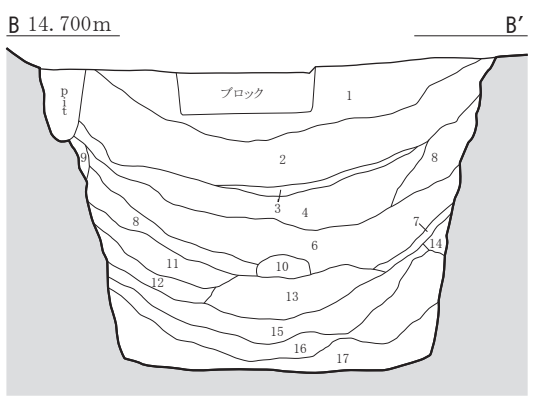
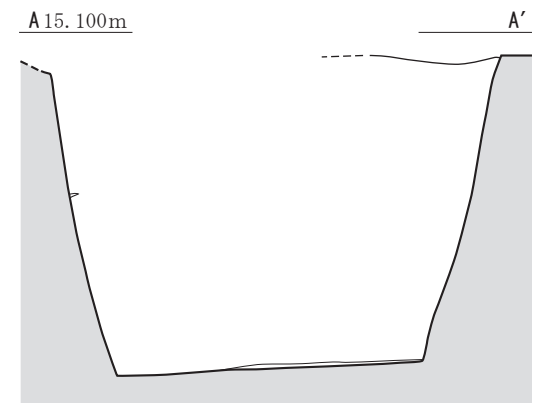
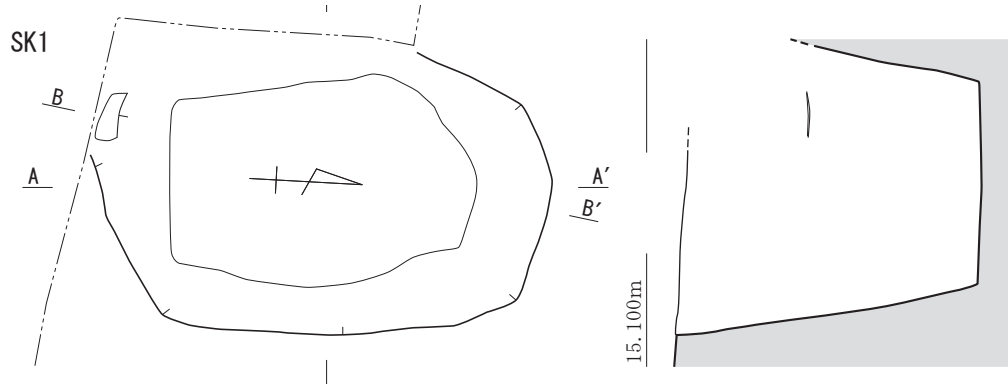
- 1 暗褐色土 (ややしまりが良い)
 2 黒色土+暗褐色土 (しまりが良い)
 3 1層と同じ
 4 2層と同じ
 5 灰褐色砂質土 (石や砂利を含む)



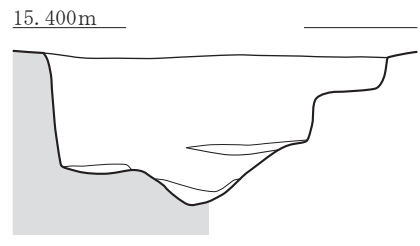
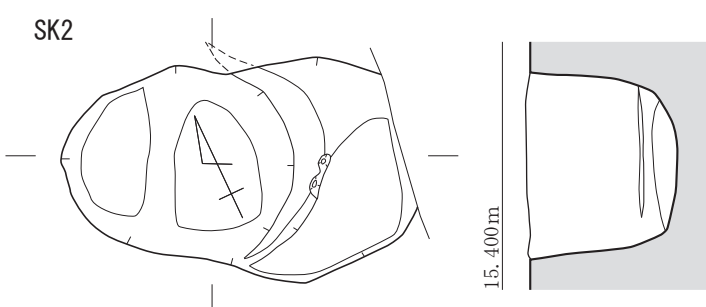
第5図 1号住居跡実測図 (S = 1/60)



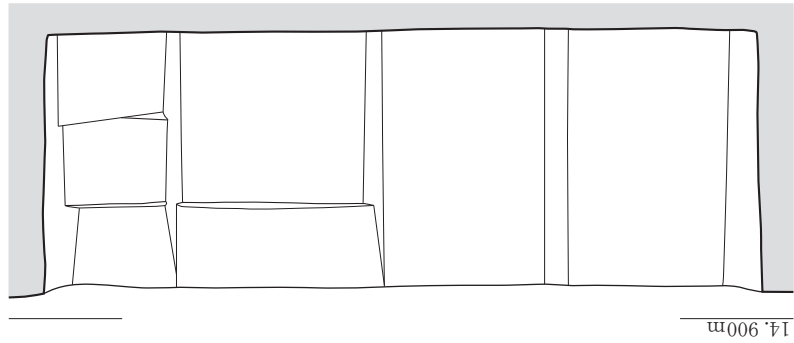
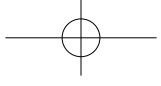
第6图 1·2·3号掘立柱建筑物实测图 (S = 1/80)



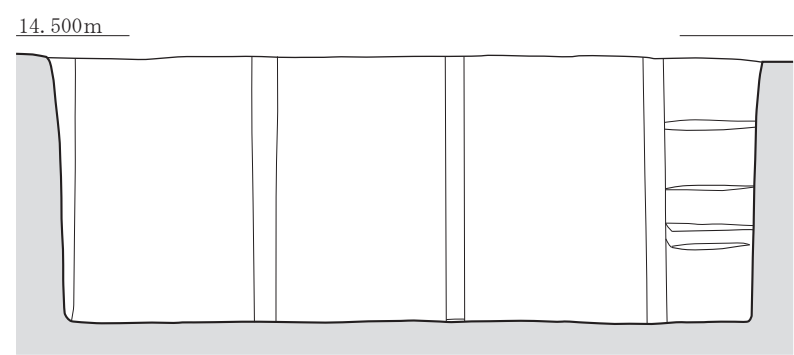
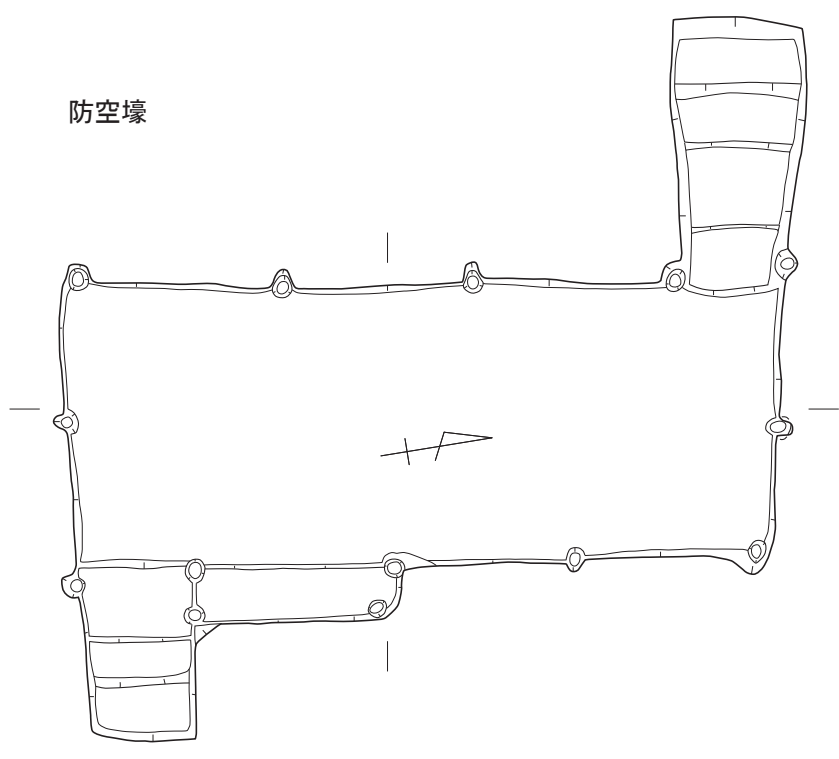
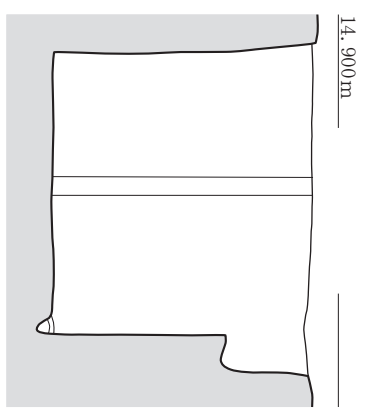
- 1 黒褐色土（非常に細かい砂質でよくしまる、均質）
- 2 黒褐色土（シルト質でよくしまる、均質）
- 3 灰褐色土（地山粒を含むシルト、層状に入る）
- 4 黒褐色土（粘質が高くよくしまる、均質）
- 5 2+4層
- 6 灰褐色土（細かい砂質でよくしまる、比較的均質）
- 7 黄灰色土（φ5cm程の地山ブロックを多く含む、しまらない）
- 8 暗黄褐色土（砂質土でよくしまる）
- 9 黄灰色土（ブロック状に入る砂質土）
- 10 茶褐色粘土ブロック
- 11 黄灰色土（細かい砂質土層、よくしまる）
- 12 13+15層
- 13 φ5～20cm大の茶褐色粘土ブロック+灰褐色砂質土
- 14 黄灰色土（細かい砂質でしまりあり）
- 15 灰褐色土（粘性が高くよくしまる、地山粒が多い）
- 16 明黄色土（地山と同質、粘性が高くよくしまる）
- 17 暗灰褐色土（非常に粘性が高くベタベタした層、しまりあり）



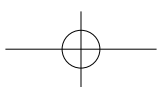
第7図 1・2号土坑実測図 (S = 1/40)



防空壕



第 8 図 防空壕実測図 (S = 1/40)



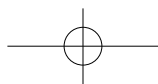
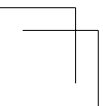
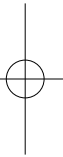
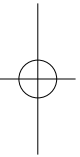
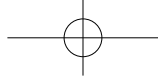
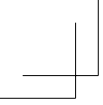
第4章 まとめ

本調査では、住居跡1軒、掘立柱建物2軒、溝5条、土壇2基、防空壕1基を確認した。このうち、住居と溝からは須恵器、土師器が出土している。周辺の調査では寺福童遺跡4から同様の土器が出土しており、飛鳥時代、特に六世紀おわりから7世紀はじめ頃が本遺跡の中心的な時期にあたると考えられる。

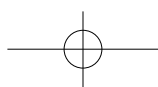
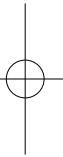
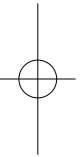
また本調査区域に隣接する寺福童開遺跡2の調査でも若干の時期幅があるものの同時期の住居、掘立柱建物、廃棄土坑などの遺構を確認しており、周辺ではある程度まとまった集団が生活を営んでいたと考えられる。これまで寺福童周辺の調査では、古墳時代の集落とみられる遺跡が確認されるのに対し、奈良時代から平安時代にかけての遺跡は、僅かな遺物を除きほとんどみられなかった。今回の調査と寺福童開遺跡2の調査で確認された遺構・遺物は二つの時期の過渡期にあたる時期のものとみられ、古墳～古代にかけての集落の消長を考えるうえで貴重な成果であると考えられる。また本遺跡および寺福童開遺跡2の検出状況から同時期の生活域は更に広がるとみられ、今後の調査での更なる成果と発見を期待したい。

表1 寺福童開遺跡1 出土土器観察表

出土遺構	挿図番号	図版番号	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整	備考
1号住居	第4図 1	5	土・甕	口:(14.0) 高:7.5	にぶい褐色	1~2mmの砂粒を含む	やや不良	体・外:ハケメ 口・内外:ヨコナデ 体・内:ヘラケズリ	約1/5残存
1号住居	第4図 2	5	須・坏蓋	口径:(12.0) 残存高:3.0	灰色	1~2mmの砂粒を含む	良好	天・外:回転ヘラ切り 天・内:ヨコナデ 体・内外:回転ヘラケズリ	約1/5残存 天井外面にヘラ記号
1号住居	第4図 3	5	須・坏蓋	口:11.0 高:2.4	外:にぶい橙色 内:にぶい黄橙色	1~3mmの砂粒を含む	やや不良	天・外:回転ヘラ切り後ナデ 天・内:横ナデ 体・内外:回転ナデ	ほぼ完形 天井外面にヘラ記号
1号住居	第4図 4	5	土・高坏	残存高:3.6 底:9.4	外:橙色 内:にぶい橙色	微砂粒を含む	良好	体・外:ヘラケズリ、ヨコナデ 体・内:回転ナデ	約1/10
3号溝	第4図 5	5	須・坏蓋	残存高:1.0 最大径:5.0	灰色	2~3mmの砂粒を少量含む	良好	底・外:回転ヘラ切り後ナデ 底・内:回転ナデ	約1/5残存 天井外面にヘラ記号



写真図版





①寺福童開遺跡 1 北区全景（上空から）



②寺福童開遺跡 1 南区全景（北東から）

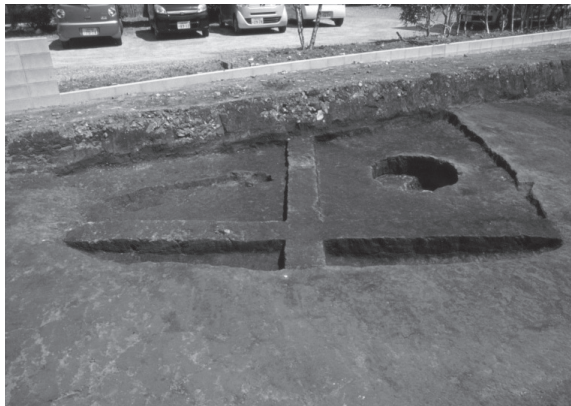
図版 2



① 1号防空壕 完掘（南から）



② 1号防空壕 完掘（西から）



① 1号住居 東西ベルト土層断面（南から）



② 1号住居 南北ベルト土層断面（西から）



③ 1号住居（上空から）



④ 1号住居 下層（北から）



⑤ 1号掘立柱建物（北東から）



⑥ 1号溝 完掘（北から）



⑦ 2・3号溝 完掘（北から）



⑧ 2・3号溝 土層断面（南から）

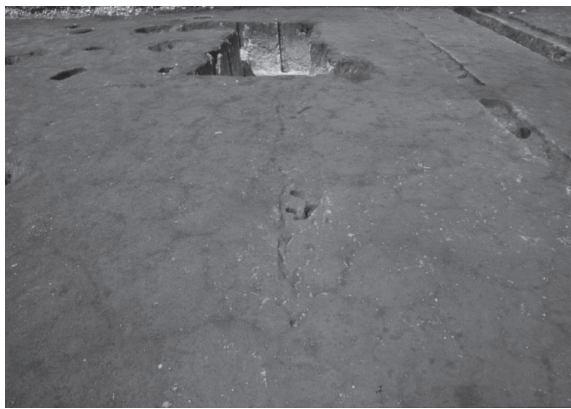
図版 4



① 3号溝 土層断面 (北から)



② 4号溝 完掘 (北から)



③ 5号溝 完掘 (南から)



④ 1号土坑 土層 (東から)



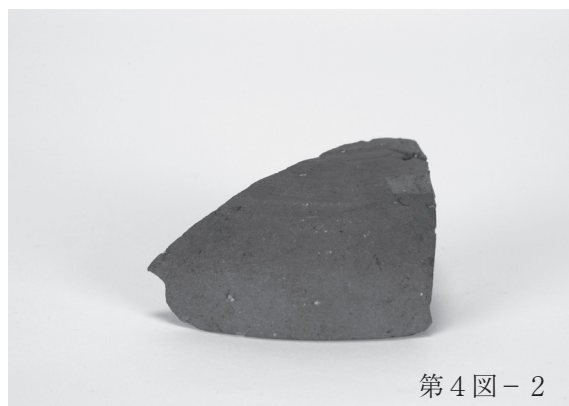
⑤ 1号土坑 完掘 (東から)



⑥ 2号土坑 完掘 (東から)



第 4 图 - 1



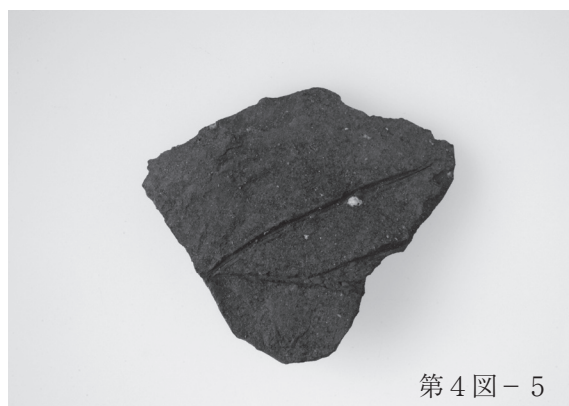
第 4 图 - 2



第 4 图 - 3



第 4 图 - 4



第 4 图 - 5

出土土器

图版 6



防空壕 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	てらふくどうひらきいせき1							
書名	寺福童開遺跡1							
副書名	福岡県寺福童所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第322集							
編著者名	一木賢人							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 TEL0942-72-2111							
発行年月日	平成31(2019)年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
寺福童開遺跡1	福岡県 小郡市 寺福童	40216		33° 39' 40"	130° 55' 20"	2017.3.17 ～ 2017.5.17	695.88㎡	保育所建替
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
寺福童開遺跡1		弥生 古代		住居 掘立柱建物 溝 土坑		土師器 須恵器		
要約	<p>本調査では、住居跡1軒、掘立柱建物2軒、溝5条、土壇1基、防空壕1基を確認した。このうち、住居と溝からは須恵器、土師器が出土し、飛鳥時代、特に六世紀おわりから7世紀はじめ頃が本遺跡の中心的な時期にあたりと考えられる。</p> <p>今回の調査で確認された遺構・遺物は古墳時代から奈良・平安時代の過渡期にあたる時期のものとみられ、古墳～古代にかけての集落の消長を考えるうえで貴重な成果であると考えられる。</p>							

寺福童開遺跡 1

－福岡県小郡市寺福童所在遺跡の調査報告－
小郡市文化財調査報告第323集

平成31年3月31日

発行 小郡市教育委員会
小郡市小郡255-1

印刷 片山印刷株式会社
福岡県小郡市祇園1丁目8-15